

令和3（2021）年大阪市長年頭所感

大阪市長 松井 一郎

あけましておめでとうございます。

一般社団法人大阪卸商連合会の皆様方におかれましては、新型コロナウイルス感染症拡大という未曾有の災禍の中、大変なご苦勞をされていることと案じております。この間の感染の拡大防止に多大な協力を賜り、心より御礼申し上げますとともに、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

これまで誰も経験したことのない状況のなか、本市は大阪府と連携しながら、市民の生活を守るための取り組みを実施するとともに、市民や事業者の皆さまには、さまざまなお願いをし、ご理解・ご協力をいただいていたところですが、

依然として、先行きが見えない状況ですが、引き続き、市民の命と暮らしを守るために、全力で取り組んでまいります。

大阪の経済も、インバウンドの消失・雇用環境の悪化など、大きなダメージを受けていますが、この危機を乗り越え、大阪の再生・成長を実現するため、今後のコロナ終息を見据えた新たな戦略を、昨年12月に大阪府と一体で策定しました。

この戦略を推進することで、2025年の大阪・関西万博の成功、SDGsの達成へとつなげ、日本の成長をけん引する東西二極の一極として、世界に存在感を発揮する「副首都・大阪」を確立し、発展させてまいります。

2025年に大阪・夢洲で開催される大阪・関西万博に向けては、昨年12月のBIE総会において登録申請書が承認されました。また昨年末、国において基本方針、博覧会協会においては基本計画が策定され、いよいよ開発準備が本格化していきます。本市といたしましても開催地として積極的に万博の開発機運を盛り上げてまいります。

また、地域経済を支える中小企業等の事業活動継続の下支えに万全を期すべく、営業時間短縮要請に対する協力金制度や、国のセーフティネット保証制度にかかる認定を迅速に進めるとともに、大阪産業創造館を中心に様々な経営課題解決への支援や大阪産業技術研究所における技術支援などにより、ウィズコロナに対応して成長・発展をめざす中小企業への支援サービスの強化や充実に力を尽くしてまいります。

更に、世界に伍するスタートアップ・エコシステム拠点の形成をめざし、国により「グローバル拠点都市」として昨年7月に選定されました。これを追い風に、京阪神の都市間の連携を一層深め、新たな市場開拓をけん引するスタートアップの創出・成長に取り組み、イノベーションが次々と生まれる好循環づくりを推進します。

大阪・関西万博やスーパーシティ構想などを見据え、先端技術を活用した製品・サービスの開発、実証実験や社会実装などの加速支援に取り組んでまいります。

これからも大阪を元気にし、皆様の暮らしを守り、充実させていくために全力で取り組んでまいりますので、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

一刻も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、一般社団法人大阪卸商連合会の皆様にとりまして、この新しい年がよりよき年になるよう祈念しております。